

弘前大学ボランティアセンター (HUVVC)

# News Letter

第6号

## 新センター長就任のご挨拶

弘前大学ボランティアセンター長 理事(社会連携担当)・副学長 石川 隆洋

この4月に弘前大学ボランティアセンター長に就任いたしました石川です。センター長という重責を仰せつかりまして、身の引き締まる思いです。

さて、弘前大学ボランティアセンターは、東日本大震災を契機に活動を始めましたが、早いもので7年経過いたしました。関係各位のこれまでのご労苦に対し深く敬意を表します。

私は、東日本大震災の時は大阪出張中で、故郷青森が心配で心配で堪りませんでした。翌日、逸る心を抑えつつ、大阪伊丹

空港に向かう阪急電車の車内で、乗客の「阪神・淡路大震災を思い出す。何かせなあかなあ。」との言葉に勇気づけられたものでした。

本センターの活動は、地域からのボランティア派遣要請への対応のほか、災害復興支援交流活動、学習支援活動、除雪ボランティアなどですが、これらは、皆様のボランティア精神の発露があればこそ可能となりますので、今後ともご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



## 岩手県野田村の交流活動報告(2018年7月7日)

平成30年7月7日に野田村ボランティアまつりに参加してきました。参加は市民9名、教員1名、学生8名の総勢19名です。活動場所は新しく造られた野田村保健センターで、木材を中心に造られた施設内はとてもきれいでした。活動日当日は朝から雨で、会場に着くまで棒パンづくりを実施するか否か、なかなか判断できずにいました。

会場に着くと、広い軒下で棒パンづくりを実施できるとのことで、生地作り、炭おこし、プレーパーク、コミュニティ茶屋に分かれてそれぞれ準備作業をしました。棒パンを焼くため、外の軒下で炭火グリルの準備を開始しましたが、雨と風で炭おこしに非常に苦戦しました。パンの生地はいつも出来上がりまで時間がかかるのですが、炭より早く出来上がるという嬉しい想定外もありました。それでも、炭おこしに慣れているメンバーが集まっていたので、雨にも負けずに炭を起こすことができ、野田村の皆さんに棒パンを振る舞うことが出来ました。今回は野田村民の方々以外にも、野田中学校の生徒、青森県立保健大学のグループも参加していて会場内は終始賑やかな様子でした。今回初めてボランティア活動に参加する学生もプレーパークで一緒にお話ししたり、子供たちと楽しそうに折り紙を折ったりと各々活動を楽しんでいたと思います。棒パンを焼いていた中学生が、隣にいた小学生に話しかけ、一緒に作っていたの



棒パンを焼く様子

がとても印象に残りました。改めて野田村の結びつきの強さを伺うことができました。

楽しい活動はあっという間に終わり、私達は弘前へと帰りました。あいにくの雨でしたが、帰りのバス車中の様子では、参加したみなさんの中に達成感があつたように感じました。今回は悪天候、初めて使用する施設、という条件のなか臨機応変に対応することができ、活動を楽しむことができたと思います。今回の経験と反省を活かし、次の活動も成功できるようにしたいです。(担当：人文社会科学部2年 磯野雄太郎)



コミュニティ茶屋の様子



センター内の賑わい

## 「弘前大学学生に対する青森県警察サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式」開催(2018年6月15日)

平成30年6月15日(金)、弘前大学創立60周年記念会館 コラボ弘大8階 八甲田ホールにて、平成30年度の『弘前大学学生に対する青森県警察サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式』が開催されました。サイバー防犯ボランティアは青森県警察本部が実施する県内小中高校での講話や、インターネット上のサイバーパトロールなどの防犯活動へ委嘱を受けた学生が協力するものです。

交付式は5名の学生が出席し、代表で石井優璃さん(農学生命科学部3年)が「安心安全なサイバー空間の確保に貢献する」と宣誓し、続いて青森県警察本部生活安全部長の岩淵



委嘱状の交付を受ける石井さん

猛氏と、石川センター長から、ボランティア学生へ期待と激励の言葉が贈られました。

本年度は10人の本学学生が委嘱を受け、任期は平成31年3月31日まで活動します。



記念撮影の様子

## 「平成30年度第1回市民ボランティア講座～子どもの貧困を考える～」を開催(2018年7月1日)

平成30年7月1日(日)、弘前大学創立50周年記念会館みちのくホールにて貧困問題や子ども食堂等への対策と支援などを全国に展開している法政大学現代福祉学部福祉コミュニティ学科教授 湯浅 誠氏をお招きし、「平成30年度第1回市民ボランティア講座～子どもの貧困を考える～」を開催しました。これは市内の子ども食堂などの貧困対策事業者、行政、地域及び教育関係者の、子どもの貧困に対する理解を深めることを目的としたものです。

まず、当センター副センター長・人文社会科学部教授 李永俊から「弘前市の子どもの貧困と学習支援・子ども食堂についての現状」について説明があり、続いて、湯浅誠氏から「子どもの貧困 私たちにできること」と題し、子ども食堂は地域交流の場であり、その賑わいから漏れる子を減らすことが貧困対策につながることや、食卓を共にする事で子どもの価値観が育まれるなど、特別なことをしなくてもそばにいただけで果たせる役割があることなどについてお話しいただきました。



開催の挨拶をする石川センター長



説明を行う李副センター長



講演する湯浅誠氏



会場の様子

最後に、李副センター長から、問題意識を共有し、できることをできる人から、できる範囲で始めるのが大事であり、活動に参加したい人は弘前大学ボランティアセンターに気軽に相談してほしいと締めくくられました。

本講座には、高校生、福祉・行政・教育関係者、本学教職員・学生、民間事業者など約170名の参加があり、講演後のアンケートでは「子ども食堂は空腹を満たすだけでなく、子ども会の現代版として地域発展に大きな役割を果たせると気付いた。」「今また交流の場を求める人が増えている。」「そばにいただけの支援などからはじめてみたい。」「『貧困』ということばの強さやイメージにとらわれていた。」などの意見があり、参加者が地域と子どもの貧困について再考するきっかけとなっただけでなく、各機関の連携交流の場としての役割も果たし、弘前市全体で今後の対策について議論する場となりました。

## 岩手県野田村の交流活動報告(2018年8月5日)

今回は、野田村新町自治会が主催する夏祭りのお手伝いと盆踊りに参加させていただきました。参加者は、夏休みに入ったこと、そして弘前ねぶた祭りの期間中ということもあって学生が3名、市民が15名、教員が1名の19名と、いつもより若干少なめでした。

明け方に30mmを超える雨が降った弘前を9時に出発しました。高速道路もひどい雨でしたが、野田村に着いてみると雨はひどくはなく、何とか活動に入ることができました。ボランティアセンターの立ち上げに携わった山口恵子先生(東京学芸大学)やチーム北リアスの永田素彦先生(京都大学)とも合流し、夏祭りに参加しました。この夏祭りは、新町で初めて開催されるものです。会場はすでに準備が終わっていました。

13時頃から「縁日」がスタートしました。流しそうめんにおにぎり、ホタテ焼きなどの海産物、様々な料理が準備されていて、また子どもたちのために綿あめやスーパーボールすくいなども行われていました。主として、私たちは、その運営のお手伝いをさせていただき、同時に地区のみなさんと一緒にご馳走になりました。

14時頃から、唄の先生お二人が見えて、盆踊りの「練習」です。晴れていれば屋外で輪になって踊る予定でしたが、雨のため、コミュニティ・センター内で実施しました。野田村のみなさんは、年配の方はもちろん、若い方たちもスッと踊りに入っているのですが、私たちはその動きに合わせるのに悪戦苦闘という感じです。

15時少し前に、太鼓のみなさんが到着し、いよいよ盆踊りの「本番」です。生の歌声と生の太鼓の演奏に合わせて踊るといって、大変驚沢なものでした。唄も太鼓もしっかり伝承され、しかも地区の祭りに来て生で演奏して下さっていることに驚き

ました。また、太鼓は子どもたちも参加していましたが、かなり練習を積んでいる印象を持ちました。結局3つのパターンの踊りを約50分に渡って踊りました。この夏祭りには、野田村の村長、副村長もいらしていましたが、お二人も一緒に輪の中に入って踊っていました。また、新町地区の子どもたちも参加していたのですが、食事の合間や踊りの合間などに学生と元気に飛び回って遊んでいました。大人も子どもも元気な夏祭りだったと思います。

16時頃、会場を後にして帰路についたのですが、最後にバスの中に来て自治会長さんが挨拶に来てくださったり、夏祭りの参加者のみなさんが全員外に出てきて手を振ってくださったりと、最後まで温かな気持ちで参加できた活動でした。帰路のバスの中でも、「ホタテ、おでんが美味しかった」「流しそうめんが楽しかった」という食事が美味しかったという感想や、「踊りが分からず、やっと覚えた頃に終わってしまった」「踊りが分からなかったが、それでも楽しかった」という盆踊りに関する感想が聞かれました。また、「久々に参加したが、以前よりも笑顔が多かった」「以前よりも朗らかで、男の人も一緒に踊っていたのが印象的だった」という声もありました。

私は初めて新町地区に行きましたが、非常に整備され緑も豊かな場所でした。今回、とくに印象に残ったのは、新町地区の皆さんが、新たな「絆」を作ろうと一生懸命努力されている姿でした。その初回の夏祭りに参加させていただき、一緒に盛り上がるのが出来たのは非常に喜ばしいことでした。震災から7年が過ぎましたが、新町地区のみなさんの「絆」がもっと強くなるまで、そのお手伝いを続けていければいいなと感じた一日でした。

(担当：人文社会科学部 平野 潔 教授)



流しそうめんの様子



盆踊りの様子



準備されていたご馳走



スーパーボールすくい

## 平成30年度 野田村宿泊学習(2018年8月11日、12日)

野田村の子どもたちと一緒に、宿泊学習を行いました。お盆期間で忙しいなか、12人の子どもたちが参加してくれました。

始めに講師の久保栄一郎さんの指導でレクスポーツを行いました。数人で行うミニゲームや、鬼ごっこなどで楽しく汗を流しました。元気、体力ともに流石の小学生でした。皆で道具を使ってビー玉を運ぶゲームも行いました。子どもたちは、それまでに残っていた元気を集中力に変換して、3チームのなかで1番になれるように頑張りました。

夜はLIGHT UP NIPPONというお祭りに行きました。近くの公園で鬼ごっこをやったり屋台を回ったりと、お祭りを満喫しました。花火があがるとのこと、どこで見ようかと思っていたら、子どもたちが特等席を案内してくれました。そういえばもう開催7年目で、子どもたちは常連さんでした。楽しい1日目でした。

2日目は快晴でした。午前中は「野田村GO」と題したフィールドワークを行いました。みりよくスポットなど、野田村の様々なスポットを発見してみようというものです。子どもたちも、歩き慣れている道とはいえ、実はよく知らなかった建物や施設があったようです。住民の方にインタビューもさせていただきました。ご協力ありがとうございました。

昼食のBBQの後は棒パンづくりも行いました。子どもたちには最後の焼く行程をやってもらいましたが、火力が少々弱いときもあり、飽きて遊びに行ってしまう子もいました。しかし、そうして苦労してつくったパンはおいしかっ

たようで、何度も焼きに行く子もいました。昼食後は、野田村GOの成果を発表する時間でした。3班とも、ユニークなコメントを書いて面白かったです。最後にお別れ会を行い、宿泊学習は全日程を終えました。

子どもたちも学生も1人1人様々な特徴があり、楽しく実りある2日間を過ごせたと思います。野田村との交流は引き続き行っていきたいです。今後とも弘前大学ボランティアセンターへのご支援をよろしくお願いいたします。

(担当：人文社会科学部3年 山崎 健)



参加者集合写真



BBQは野田村総合センターの庭で



野田村GOのまとめ作業の様子



力を合わせる、を遊びから学ぶ

## ボランティアへのご参加、募集等について

### ボランティアへの参加について

ボランティアに関心をお持ちの方は下記までお問合せください。

- ・弘前市民の方・・・弘前市ボランティア支援センター TEL：0172-38-5595
- ・弘前大学関係者・・・弘前大学ボランティアセンター E-mail：huvc@hirosaki-u.ac.jp

### 学生ボランティアの募集の周知依頼、派遣依頼

学生ボランティアを募集したい団体からの周知、派遣要請を受け付けております。

詳しくはボランティアセンターのホームページをご覧ください。センターへ直接お電話等でご相談ください。

(※各種申請書類提出後、団体登録の可否、ボランティア要請の審議をさせていただきます。審査等に期間を要しますので、余裕を持って登録申請等行っていただきますようお願いいたします。)

- ・弘前大学ボランティアセンター・・・HP：<http://huvc.net/> TEL：0172-39-3268  
平日午前10時～午後3時

弘前大学ボランティアセンター (HUVIC) 平日午前10時～午後3時

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

TEL：0172-39-3268 FAX：0172-34-5251 E-mail：huvc@hirosaki-u.ac.jp